

# 平成 28 年度 第3回指宿市共生ビジョン懇談会 (交通部会) (共生ビジョン (案) に関する主な意見概要)

日 時 平成 28 年 12 月 8 日 (木)  
10 時 00 分 ~ 12 時 00 分  
場 所 大会議室 A・B

## 1. 共生ビジョン (案) について

### ① 地域公共交通について

- a. 地域公共交通分野の形成方針を踏まえた課題 (案) について (P 6)  
・内容について、異議なし。
- b. 交通分野の形成方針を踏まえた具体的な取り組み (案) について (P 21~25)
- c. 意見・質疑

	主な意見・質問	それに対する意見・回答・対応など
1.	市内循環バス(イッシーバス)課題等も含めて調査検討しながら新たな交通体系の構築検討にあたり、形成方針にある「民間路線バスや観光利用等との効果的な連携」のあり方を検討する中で、場合によっては、民間路線バスやJRに申し入れして時間変更してもらう可能性もあるということか。	場合によってはお願いをすることもあるかもしれないが、既存の民間路線の時刻表を変えるのはなかなか難しい。基本的には、市営のイッシーバスの方を、他の交通機関とうまく連携できる時刻に合わせる形の調整を考えている。
2.	高齢者の事故防止のための免許証返納と、地元交通の利便性向上とは関係性が強い。経費の問題もあると思うが、利便性を少しでも向上させて欲しい。	免許証返納による高齢者の事故防止については、重く受け止めている。経費の問題はあるが、免許証を返納した高齢者が、病院や買い物、生きがいづくりのために街に出ることは大事なことなので、そういったことも踏まえて検討していきたい。
3.	p 24 「地域間幹線系統確保維持補助金」の事業費について、平成 29 年度以降は平成 28 年度より減額されているが、赤字路線が回復するという見込みがあるためか?	県のバス対策協議会が、民間バス会社とも調整したうえで算出した額であり、市が予算の関係で削減したということではない。
4.	来年度以降行う、路線の検討では、既存路線だけがありきの調査・検討ではなく、現在では利用者が少なく廃止された路線地域(仙田など)も含めて、イ	意見にあった、イッシーバス路線が廃止された仙田地域については、交通網が少ないと感じている。人口が減って利用者数が少ないような地域につ

	<p>ッシーバスのスタート時点の状況も踏まえた検討をして欲しい。</p>	<p>いても、バスもしくはバスに変わる何らかの交通手段が確保できるようにしくみを、検討していきたい。</p>
<p>5.</p>	<p>p 2 3 「新たな交通体系構築事業 (H29～)」において、平成 30 年度に公共交通協議会を設置し、協議していくことになった。第 1 回の懇談会でこの公共交通協議会の設置をタクシー協会の立場から要望した理由は、将来的に高齢者も減っていく中で、公共交通という、どうしてもバスや J R がメインで、タクシーの位置づけは微妙なところがあるわけだが、全体の人口は減っていく中で、イッシーバスをはじめとするバスが充実すると、利用者全体数はバスもタクシーも一緒なので、タクシー (の果たしている役割) ともバランスをとりながら、バスだけではなくタクシーも含めて (全体の交通体系を考えて欲しい) という意味合いがある。</p> <p>以前 (10 年くらい前まで) は、開聞にもタクシーの営業所があったが、現在のタクシー拠点は、指宿・山川・今和泉である。開聞にはタクシー営業所がないので、開聞で買い物をするお客さんが、十町交差点周辺から A コープまで歩いて買い物にいった、帰りは荷物があるのでタクシーで帰りたいという時にタクシーを呼ぶ場合、山川の営業所からタクシーは行かないといけない。タクシーは、営業所から 4 k m 以上でメーターを倒して良いという回送料が決まっており、回送料で料金が高くなってしまふ。できれば、1 台でもタクシー拠点が開聞にあると、地域の人にとっては助かるということがあると思う。</p> <p>タクシーの場合でも、開聞営業所が一回撤退すると、その後、そこに営業所を新たに設置するという方向にはなら</p>	<p>公共交通協議会については、市のバスを中心には考えるが、その中には、鹿児島交通、J R、タクシー協会、警察、地域利用者代表、指宿商工会議所、菜の花商工会等、色々な立場の方々に参画いただこうと考えている。</p>

	ないのが現実であり，これはバスについても同じだと思う。	
6.	<p>「新たな交通体系構築事業（H29～）」において，今後，調査をしていくうえで，境界部分の近隣市町村（鹿児島市・喜入，南九州市・穎娃）の住民で，指宿市に生活拠点がある住民による（市内循環バスの）利用促進という視点も踏まえた調査をしてみてもどうかと思う。</p> <p>指宿市内だけでの利用者は人口減少で限られてくる中で，外部からの需要を取り込むことも大事だと思う。</p>	<p>ご意見いただいた，喜入・生見や，南九州市・穎娃の方々は，ある意味，指宿駅周辺や指宿市内のスーパー，病院が生活の拠点の1つになっている可能性もあるので，来年度の調査をかける際には，境界周辺市町村住民の需要も踏まえた検討をしたいと思う。</p>
7.	<p>タクシーの利用状況として，免許証を返納された高齢者が多い。警察発行の免許証返納証明をもって，事業所として，1割引のサービスをしている現状がある。</p> <p>また，（上記6で意見があったとおり），開聞十町からAコープまでの距離でも，買い物だと荷物があるので歩いていけないので，行きはイッシーバスを使い，帰りはイッシーバスだと午後の便を待たないといけなこともあり，タクシーを使うとお客さんからは聞く。</p> <p>しかし，タクシーの営業所が開聞にはないので，山川営業所からタクシーを呼ぶと回送料が余計にかかるので，非常に気の毒に思っている。</p> <p>開聞十町にはバス路線が少ないので，開聞駅まで出てはどうか等の提案を我々からはしているのが現状だが，公共交通協議会で協議の場ができるので，いろんな意見が出せるのではないかと考えている。</p>	<p>県による買い物難民の調査結果等も見ながら，買い物に困っている実態があれば，その対策を考えていきたいと思う。</p> <p>また，南九州市のひまわりバス（各地域内循環生活バス・地域間連結バス）を視察してきた。非常に充実していたが，費用もそれだけかかっていた。費用との折り合いはあるが，平成30年度に公共交通協議会を立ち上げるが，事前に色々な意見を伺う場の設ける方向で検討させて欲しい。</p>
8.	公共交通協議会の設置は平成30年度だが，調査はその前の年度にかける	公共交通協議会の設置は平成30年度だが，行政の一方的な考えで調査

	<p>ので、調査をかける内容について先に意見をもらえるような機会が必要ではないか。</p>	<p>をかけるのではなく、何らか意見を伺う機会を設ける方向で検討させて欲しい。</p>
<p>9.</p>	<p>高齢者と身障者の方にとって、バスの乗り降りの際、バスの高さが障害になる。いくらバスの便が増えても、そこが解消されないと利便性は向上せず利用できない方もいるので、その点も考慮した検討をお願いしたい。</p>	<p>(鹿児島交通 指宿営業所長)</p> <p>うち(指宿営業所管内)にも(低床バスが)1台配置はされており、高齢者は乗りやすく良い面がある。一方で、低床バス・車イス対応のバスは、座席数が少なくなるため、立ち乗りができるような乗客が多い路線では、逆に高齢者にとって危険であるということから、安全面で課題もある。</p> <p>(担当課)</p> <p>イッシーバスの開聞線は、乗客が多く、立ち乗りも多かったことから、安全面から大きなバスになった経緯もある。安全面と、様々な立場の利用者との関係もあるので、今後、協議していく中で、検討させて欲しい。</p>
<p>10.</p>	<p>地域公共交通における形成方針で、イッシーバスについて、市民の利便性向上を図りながらも観光利用との連携も図って利用促進を努めるとしたとおり、「新たな交通体系構築事業(H29～)」において、調査委託をかける際には、さきほど出たような市民や高齢者の視点と、観光客の視点の2つが必要だと思う。</p>	<p>今のイッシーバスは、市民利用に主眼をおいた運行をしており、観光客が利用することはほとんどない。今回のビジョンに基づく平成29年度における調査委託の中で観光客も利用できるようなあり方も含めて検討していきたいと思う。</p> <p>鹿児島交通さんが、45分に一回巡回するような観光周遊バスを運行していただいているが、そこ以外のコースの必要性なども含め、また、平成30年の大河ドラマ「西郷(せご)どん」に合わせた観光施策計画との連携など、観光との連携もできるのではないかと考えている。</p> <p>観光課の視点からは、指宿駅に着いた後の二次交通対策が課題である。また、国内観光客が減少する反面、海外</p>

		<p>からの観光客が増えてくる中、その外国人観光客は指宿だけではなく、鹿児島県全体、九州全体を考えた旅行行動をとるため、そういう意味でも指宿市だけではなく、南薩、大隅まで視野に入れた二次交通体系の確保が今後重要だと考えている。</p> <p>現在、鹿児島交通さんの「のったりおりたりマイプラン」や、タクシーの「駅から観タクン」がある。それらの点同士が線になるような交通体系の構築が、観光課目線での今後の課題だと考えているので、そういったことも含めて調査してもらおうことになると思う。</p>
--	--	---

※ 文言修正を除き、ビジョン（案）の内容に関する修正意見はなく、内容については、全委員了承。

② 他分野について（医療、人材育成等）

- a. 他分野の共生ビジョン（案）について
- b. 意見・質疑

	主な意見	それに対する意見・回答・対応など
1.	<p>タブー的な部分もあるかもしれないが、3分野共通して、市全体を対象とした議論というより、もう少し拠点を絞った、コンパクトなまちづくりの議論や視点が必要になってくるのではないかと思う。</p> <p>人口を集約していくのは難しいとは思いますが、これから新たに家を新築する人もおり、今までは自分の土地がここにあったからここに建てようというような時代だったが、これからは将来年をとったときに、近くの病院や交通の利便性などを考えざるを得ない時代に入ってきていると思う。</p> <p>共生ビジョンの3分野に限らず、教育や文化においても同様に、人口がすぐ減っていく中で、どの段階が適当</p>	<p>医療部会においても、医療、介護、行政機関等が1つの拠点に集約した医療分野におけるコンパクトなまちづくりの必要性について意見があったが、会全体の議論としては、現在国が医療分野において進めようとしている病床数削減の政策などの出口が医療機関の先生方にも見えない中において、まだ、市民と、医療が今後抱える人口減少の課題を共有するには現段階では時期尚早だという結論になった。</p> <p>P7の「圏域の将来像」にあるように、今の時点では、事務局（案）としては、「各地域がそれぞれの個性や特性を生かし、役割分担しながら一層連携を強化するとともに、圏域全体の活</p>

	<p>なのかわからないが、市民に示す大きなビジョンが必要なのではないかなと感じている。なかなか、郡部に住んでいる人達は、じゃあ自分達はどうなるんだという部分、タブーな部分もあると思うが、そういった視点をもっていないと、市内全体を広いままの中で維持していることは大変だろうと感じている。</p>	<p>性化に取り組み・・・」ということである。</p> <p>現時点では早いにしても、この議論は避けて通れないことで、また、行政主導ではなかなか難しい問題だと思っているので、いずれの段階かで、このビジョンの機会をきっかけに、皆さんと一緒に考えていければ良いと思っている。</p> <p>また、医療と介護においては、P 13「在宅医療・介護連携推進事業」で説明があったとおり、医療・介護・在宅連携システムが構築に向けて今年度から動き出しており、この連携が構築されていけば、委員が言うような部分も少しは改善されていくのではないかと考えている。</p>
<p>2.</p>	<p>共生ビジョンの期間は5年間とあるが、5年後には、また見直して新たなビジョンが続いていくので、その中で、今意見があったような視点の議論をする段階になった時に、そういった視点などを加えることは可能ということか？</p>	<p>5年を待たずに毎年度見直しを行っていくこととなっている。また、5年後には、国の制度が続く限り、更新という形で見直ししていくので、状況に合わせて追加することは可能である。</p>
<p>3.</p>	<p>P 3 2「新たな地域コミュニティ組織モデル事業（平成 29 年度から「新たな地域コミュニティ課題解決事業）」について、現在、モデル地区3地区、支援地区3地区だが、最終的には、何年度を目標にどういう形でやっていくのか？それがわかれば、それに沿った取り組みがもっとできるのではないかと思う。</p>	<p>委員と我々担当課も一緒に視察した先進事例の中には、確かに全ての地域にコミュニティ協議会を設置し、権限と財源を渡して地域づくりを進めている例もあった。しかし、これまで先進事例を研究してきた中で、行政主導でいきなり全域に導入した薩摩川内市などで起きている問題として、結局、取り組みが活発な地域と、そうでない地域があり、且つ、活動できている地域数は少ないという現状がある。</p> <p>そういったことから、画一的に全地域に何年度までにとというような目標年度などは、担当課として持ち合わせていない。まずは、人づくり・場づく</p>

		りを通して、その受け皿となる土壌を一緒に作っていければという取り組みをしてきているところである。
--	--	--

※ 文言修正を除き、ビジョン（案）の内容に関する修正意見はなく、内容については、全委員了承。

2. その他

意見なし。